平成２８年第５回函館市教育委員会定例会　会議録

１　日　　時　　平成２８年５月１１日（水）　午後３時３０分

２　場　　所　　教育委員室

３　出席委員　　橋田委員長，小葉松委員，佐藤委員，須田委員，山本委員

４　欠席委員

５　事 務 局　　小林生涯学習部長，木村学校教育部長，佐藤生涯学習部次長，
鶴喰生涯学習部次長，阿部管理課長，加賀学校教育課長，寺本教育指導課長
菊池学校教育指導監，阿部学校教育指導監

６　傍 聴 者　　なし

７　付議事項

日程第１	報 告 事 項	・巴中学校校舎等新築実施設計の概要について ・市民会館耐震改修等調査結果について
日程第２	議案第１号	平成２８年度教育費補正予算要求に関し，議決を求めることについて
日程第３	議案第２号	教職員の懲戒処分の内申に関し，議決を求めることについて
日程第４	議案第３号	函館市立幼稚園のあり方の決定に関し，議決を求めることについて
日程第５	議案第４号	函館市学校教育審議会委員の解任に関し，議決を求めることについて
	議案第５号	函館市学校教育審議会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて
	議案第６号	函館市教育支援委員会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて
日程第６	議案第７号	函館市社会教育委員の委嘱に関し，議決を求めることについて
日程第７	協 議 事 項	開かれた教育委員会の展開について (1) 学力向上について

■橋田委員長

○　開会宣言　　午後３時３０分

○　議事録署名人に，小葉松委員，佐藤委員を選任。

○　本日の日程のうち，日程第１，報告事項「巴中学校校舎等新築実施設計の概要について」から日程第３，議案第２号「教職員の懲戒処分内申に関し，議決を求めることについて」を「秘密会」としたいがいかがか。

○　異議がないので，秘密会とさせていただく。

○　それでは，日程第１，報告事項の１点目「巴中学校校舎等新築実施設計の概要について」報告を求める。

（秘密会につき，会議録省略）

■橋田委員長
○　次に，報告事項の２点目「市民会館耐震改修等調査結果について」報告を求める。

（秘密会につき，会議録省略）

■橋田委員長
○　報告事項はこれで終了する。
○　次に，日程第２，議案第１号「平成２８年度教育費補正予算要求に関し，議決を求めることについて」を諮る。

（秘密会につき，会議録省略）

■橋田委員長
○　議案第１号については，原案のとおり可決する。
○　次に，日程第３，議案第２号「教職員の懲戒処分の内申に関し，議決を求めることについて」を諮る。

（秘密会につき，会議録省略）

■橋田委員長
○　議案第２号については，原案のとおり可決する。
○　次に，日程第４，議案第３号「函館市立幼稚園のあり方の決定に関し，議決を求めることについて」を諮る。

■学校教育部長
○　議案第３号，「函館市立幼稚園のあり方の決定に関し，議決を求めることについて」説明する。
○　本件については，有識者等による「函館市立幼稚園のあり方検討協議会」を組織し，本年２月から４月にかけて，計３回，会議を開催し，あり方の案について議論いただいた。検討協議会における主な意見としては，子どもを集団で育てるという点では，学級単位で少人数であると，子どもにとって，人との関わりが狭まること，市内に私立の幼稚園および認定こども園が多くあり，かつ，はこだて幼稚園の近隣には認定こども園が複数あること，戸井幼稚園については，現時点において，保育所や私立幼稚園がないという地域性を考慮する必要があること，子ども・子育て支援新制度の理念を追求できるのは，認定こども園であり，新制度という新しい枠組みの中においては，市立幼稚園がリーダーシップを担うことは難しいこと，小学校との連携・接続については，教育委員会などが中心となって，保育所の入所児童も含めた子ども全員を対象とし，進めていくべきであることなど，多くの意見をいただき，最終的には，市立はこだて幼稚園，市立戸井幼稚園の存廃の方向性について，あり方の案のとおり進めていただくということであった。
○　私どもは，これらの検討協議会の意見を踏まえて，あり方の案の精査・検討を行い，別添のとおりとしたものである。

○　では，別添「函館市立幼稚園のあり方について（案）」について説明する。
○　「はじめに」であるが，こちらでは，本案策定の背景を記載している。１ページであるが，はこだて幼稚園および戸井幼稚園の簡単な沿革を記載している。次に，２ページであるが，平成２１年度以降の両園の園児数の推移を記載している。次に，３ページであるが，平成２７年度の子ども・子育て支援新制度の施行に伴う市立幼稚園を取り巻く状況を記載しており，これまでに新制度へ移行した私立幼稚園が市内２２園中１９園に達したことや私立幼稚園と比較して低廉な保育料である市立幼稚園の優位性が失われていることなどについて記載している。次に，４ページであるが，前項の状況を受けて，市立幼稚園の今後の存廃について，考え方をまとめている。
○　まず，はこだて幼稚園であるが，市内全体の幼稚園園児数には大きな変化がない中，市立幼稚園の園児数は減少の一途をたどっていること，さらに新制度への移行に伴い，保育所機能を有しない市立幼稚園では，教育・保育両面での充実を図ることを目的とした子ども・子育て支援において，先駆的な役割を果たすことがますます難しくなると考えられること，また，はこだて幼稚園の近隣に認定こども園が複数存在することなどを踏まえて，はこだて幼稚園を市立幼稚園として継続して運営することは難しく，廃園という結論としたものである。
○　一方，戸井幼稚園については，地域に幼稚園および保育所機能を有する施設が存在しない状況を踏まえて，当面，運営を継続し，入園希望者や周辺の教育・保育施設の受け入れ体制等の状況を注視しながら，今後の措置を講ずるという結論としたものである。
○　最後に，６ページであるが，はこだて幼稚園の廃園に向けたスケジュール等について記載している。平成２９年度の入園児から段階的に募集停止を行い，平成３１年３月末をもって廃園するものとしている。また，「４　今後の函館市の幼児教育について」においては，幼児教育の充実に努めることを目指し，今後策定予定の「函館市教育振興基本計画」において，幼児教育の取り組みを位置づけること，はこだて幼稚園がこれまで担ってきた役割や，長年培ってきた幼児教育における理念等を，認定こども園等を所管する子ども未来部との連携を含め，様々な教育・保育活動をサポートする取り組みを行うこと，そのための幼児教育のセンター機能を南北海道教育センターに付加し，小学校との連携および接続の取り組みなどを充実するための体制づくりについて，検討することの３点について，記載している。
○　以上，事務局でまとめたあり方案について説明した。教育委員会として市立函館幼稚園のあり方を決定していただきたい。

■橋田委員長
○　議案第３号について，何かあるか。

■佐藤委員
○　幼児教育の重要さについて議論されていると思うが，市立の幼稚園であれば教育委員会を通じて幼児教育を提供できるが，私立の幼稚園ではそれができない。これまで培ってきた幼児教育のあり方は，きちんと連動されていくのか危惧している。

■学校教育部長
○　あり方検討協議会でも話題に出た。市として，市立の幼稚園が１園残すという方針なので，そういう意味では，リーダー性を発揮することはできる。合わせて，教育センターに教員を対象とした研修を企画するなどの取り組みや，平成３０年度に教育基本振興計画の作成を予定しているので，その中できちんと記載していきたいと考えている。

■小葉松委員
○　日本の就学前教育は，幼稚園と保育園が管轄の官庁が違うところから分断されていて不自然な状態であると思う。人口減少が進んでいる函館市において，これから，幼保連携型認定子ども園の増加が予想されるが，このような計画は，１０年ほど前に決定していてもおかしくない内容なのではと意見を述べたい。

■橋田委員長
○　議案第３号については，原案のとおり可決する。
○　次に，日程第５，議案第４号「函館市学校教育審議会委員の解任に関し，議決を求めることについて」から議案第６号「函館市教育支援委員会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」を一括諮る。

■学校教育部長
○　議案第４号から議案第６号の３件について，順次，説明する。
○　まず，議案第４号，「函館市学校教育審議会委員の解任に関し，議決を求めることについて」説明する。
○　推薦団体からの申し出により，八木　裕氏ほか３名を，平成２８年５月１１日をもって，解任しようとするものである。
○　続きまして，議案第５号，「函館市学校教育審議会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」説明する。
○　解任委員の後任として，推薦団体からの推薦に伴い，戸澤　和彦氏ほか３名を，本日より前任者の残任期間である，平成２９年８月３１日まで，委嘱しようとするものである。
○　なお，参考として，次ページに委員の名簿を添付している。
○　続いて，議案第６号，「函館市教育支援委員会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」説明する。
○　委員の任期満了に伴い，廣瀬　三恵子氏ほか１９名を，平成２８年５月２６日から平成３０年５月２５日まで委嘱しようとするものである。
○　なお，このたび委嘱しようとする委員２０名のうち，再任者は１７名で，新任者は３名である。

■橋田委員長
○　議案第４号から議案第６号までについて何かあるか。

（意見なし）

○　議案第４号から議案第６号までについては，原案のとおり可決する。
○　次に，日程第６，議案第７号「函館市社会教育委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」を諮る。
■生涯学習部長
○　議案第７号，「函館市社会教育委員の委嘱に関し，議決を求めることについて」説明する。
○　推薦団体からの申し出により，荒木　康博氏を，本日より前任者の残任期間である平成３０年３月１０日まで委嘱しようとするものである。

■橋田委員長
○　議案第７号について何かあるか。

（意見なし）

○　議案第７号については，原案のとおり可決する。
○　次に，日程第７，協議事項「開かれた教育委員会の展開について」であるが，協議に入る前に事務局から配付資料について説明願う。

■学校教育部長
○　まず始めに，過去５年間における全国学力・学習状況調査から見えてくる本市の学力の現状について説明する。過去５年間の平均正答率を見ると，全国平均との差は少しずつではあるが縮まってきている状況にある。特に基礎的・基本的な知識や技能が身に付いているかをみるＡ問題については，その傾向は顕著に表れている。小学校国語Ａ問題については，２年連続全国平均を上回るなど，小学校，中学校とも，子どもたちの基礎的・基本的な知識や技能は十分身についてきているとおさえている。
○　その一方，基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみるＢ問題については，全国平均との差は縮まってきているものの，依然その差は大きく，課題があるものと捉えている。各学校における平均正答率の高低の要因は様々なため，一概には言えない部分もあるが，１つの要因としては，Ｂ問題で問われている基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育てる授業のあり方が関係していると考えている。
○　また，調査結果において，テレビやゲームの時間が長いこと，家庭学習の時間が短いことなどが見えてきていることから，こうした課題も１つの要因になっていると考えられる。各学校においては，こうした課題を踏まえ，授業改善に努めるとともに，家庭学習や生活習慣についても，家庭・地域や近隣校とも連携を図りながら，取り組みを進めているところである。教育委員会としても，学校教育推進の指針である「アプローチ」において，生活習慣や学習習慣の定着に向けての取り組みを示すとともに，今年度から２年計画で実施するアクティブ・ラーニング推進事業を通して，子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育む授業改善をより一層推進していきたいと考えている。
○　次に，函館市のいじめ・不登校の現状について，説明する。「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果によると，過去５年間の函館市のいじめの認知件数の推移については，小学校においては，平成２２年度が４３名，平成２３年度が１０名，平成２４年度が２５名，平成２５年度が２０名，平成２６年度が９名であった。中学校においては，平成２２年度が５２名，平成２３年度が１４名，平成２４年度が１９名，平成２５年度が１３名，平成２６年度が１６名となっている。
○　また，過去５年間の函館市の不登校児童生徒の推移については，小学校においては，平成２２年度が３０名，平成２３年度が２５名，平成２４年度が３８名，平成２５年度が31名，平成２６年度が１９名であり，中学校においては，平成２２年度が１５２名，平成23年度が１５９名，平成２４年度が１４５名，平成２５年度が１１０名，平成２６年度が171名となっている。
○　各学校においては，職員間で児童生徒に関する情報を交換しやすい親和的な環境づくりを推進するとともに，日常の子どもの変化を捉えながら，定期的なアンケートや教育相談等により，児童生徒の心の声や児童生徒の些細な変化をつぶさに捉えるための組織的な教育相談体制の充実に努めている。また，教育委員会としては，小・中学校生徒指導協議会や函館市いじめ等対策委員会による，いじめに対する子どもの意識を高める集会の開催やリーフレットの配付を行うとともに，函館市いじめ等巡回相談員によるカウンセリングや教育相談の実施，また，適応指導教室および相談指導学級の設置など，学校と連携を図りながら，いじめ・不登校に対する組織的な取り組みを推進している。

■橋田委員長
○　ただいまの説明も踏まえ，何か意見などあるか。

■須田委員
○　児童生徒質問紙の結果から見えてくることとしては，テレビを見る児童生徒は減少傾向にあるが，テレビゲームを２時間以上している児童生徒が増加傾向にある。これが，全国との差となっているのではないかと思われる。

■山本委員
○　いじめの認知件数は，小中ともに０とまではいかないが件数自体は多くはない。不登校の児童生徒については一定数いる。学力向上には，日常的な生活スタイル，生活環境が関連している。それは，家庭の問題は家庭の問題として対応は必要だが，学校は，子どもたちが安心して安全に通学できる場所であるべきだと考えている。いじめの認知件数は減っているが，認知できていないいじめがあるかもしれない。子どもたちにとって学校へ通学するということが安全でないため，不登校の児童生徒が一定程度いるのだろうと思う。安心して通学できる学校づくりというのをベースにしながら，学校教育指導監の学校訪問により学校運営にも支援していくという体制の整備を図っているところである。

■小葉松委員
○　不登校の件数であるが，３０日以上の長期間不登校であった児童生徒の数だと思うが，学校を休みがちであったり，学校に来たくないと思っている児童生徒については，もっといると思われる。なので，不登校については，もっと配慮すべきだと私は考えている。学校対応は，最後の目標が，登校復帰となりがちであるが，対象の児童生徒が大人になった際にどのような対応が必要かという視点が大事なのではないかと思っている。例えば，授業を聞かなくても家庭でもきちんと理解できるような教材の作成などサポートしてあげるような取り組みを行ってほしいと思う。

■橋田委員長
○　不登校の数字を見ると，出現率が年々増加傾向にある。私自身も校長時代に校長室に呼んで様々な対応をしていた。恐らく，どの学校も対応に全力で取り組んでいると思う。しかし，保護者から見ると，まだまだ足りないという不満はあるのかもしれない。そういった面で，学校が苦労して取り組んでいるという実態は，つぶさに把握し，保護者に対して知らせていかなければと思っている。
○　本日の中心テーマについては，学力向上としているので，学力向上についてを意見交換したいと考えている。

■山本委員
○　年度によってばらつきはあるが，傾向としては，全国との差は縮まっているし，科目によっては全国平均を上回っている。学力は向上してきていると捉えている。これまでの授業改善の方向性については，大きくは間違っていないと感じている。

■佐藤委員
○　平均値は全国との差は縮まってきているということはわかるが，個々のレベルについてはどのようになっているのか。下位層の子どもたちの割合についてはどのようになっているのか。

■学校教育部長
○　下位層の割合については，分析データがあるので，次回の定例会で示したい。

■佐藤委員
○　地域性や家庭環境による傾向についても分析データがあれば示してもらいたい。

■学校教育部長
○　経済格差による学力格差については，全国的にも指摘されているので，そういった面は本市においても同様である。地域性という面では，旧４町村が極端に学力が高い，低いということはない。

■橋田委員長
○　これから経営訪問など様々な指導が各学校に入るが，学校において差はあるだろう。これから，アクティブ・ラーニングが本格的に始まるだろう。授業によって一生懸命学力向上を図るだろうが，定着度を考えるとそれだけでは足りないということがあるだろう。子どもたちが意欲を持って学習できる環境を作り上げていくということを，各学校に対して指導するべきだと思う。各学校の取り組み状況について，指導監あるいは教育指導課がどのように把握し，どのような助言・指導を行っていくかということが重要だと考えている。その辺について，菊池指導監はどのように考えているか。

■菊池学校教育指導監
○　指導監になってから７校の学校を訪問したが，どの学校も意識が高まっているという印象がある。家庭学習，授業改善，学習規律，ノート指導，読書指導など，それぞれの学校の実態に合った取り組みがなされていると感じている。ただ，その取り組みがどのように成果として反映されるかということは，これからの分析を待つところであると思うが，自分の経験も踏まえて考えると，学校の意識がこの学力テストに対する意識が高まっているということは評価できると思う。

■橋田委員長
○　学校運営の助言・指導について，すべからく指導監の２人に頼るわけにもいかない。各校長に対してどのように教育委員会が進めようとしている取り組みについて，理解度を深めていくかが重要になってくる。

■小葉松委員
○　家庭の問題はあるだろうが，それをどのように学校が克服していくかということが大事だ。家庭環境を変えることは難しいと思うので，勉強することが楽しいことだということをどのように思わせるかということ。知識を活用しながら自分で考えるということが楽しいことで，それによって自分がいろいろなことを得られるという楽しみ方がわかると伸びる余地があると思う。

■橋田委員長
○　昨年，菊池指導監が校長をしていた学校に訪問したときに，ＰＴＡが読み聞かせをしたり，朝読書をしたりすることによって，児童が読書に対する関心が高くなり，読む力が養われており，Ｂ問題の結果にもつながっているのではと話していたが，実感としてはどうか。

■菊池学校教育指導監
○　読む力が伸びると学力テストの結果に反映されるのかなと自分自身では実感していた。Ｂ問題については，ものすごい量の読みである。それに対する抵抗がなくなるのかなと思う。

■小葉松委員
○　読書をするかしないかについては，読む力に影響してくるので，学校側はテストばかりに目を向けるのではなく，どれだけ読書が楽しいかということを伝えられるかということが大事だと思う。

■終了宣言
○　午後４時４９分

議事録署名人　　小葉松　洋　子
〃　　佐　藤　敬　一

調製者庶務係　　若　﨑　友　哉